

開成校新聞

発行 開成中等新聞局
編集長 高橋 * * *
制作者 梶澤 高橋 町田
佐野 佐藤 (壮)
山崎 山内

紙面紹介
2面 旭川・富良野
二年目へ
3面 記憶を彩る
宿泊研修
4面 書道部大会報告



11月22日土曜日に札幌開成中等は開校10周年を記念して、体育館で10周年記念式典を開催した。式典では、座談会や絵馬企画が行われ全校生徒で開校10周年を祝った。

市立札幌開成中等教育学校は11月22日を境に開校10周年を迎えた。当日は、在校生徒の他に、過去開成中等に務めていた教員の皆様や在校生の保護者などが多数来校し、校舎は賑わいを見せていた。午前の部では、各教室で生徒の授業参観が行われた。1年生から4年生は、学際的単元「IDU」で生徒自身が選択した科目に分かれて学習した。5年生と6年生はIP、DPに分かれてそれぞれの課程で普段の学びを披露した。探究型の授業を通して、生徒たちの成長が感じられる授業参



相澤克明先生と開校宣言書

観となった。また、多目的ホールではトーマス先生による来校者に向けての講演会が開かれた。

午後の部では、開校10周年を記念した式典が開催された。記念式典のテーマは、校歌の一節にもある「歴史の教え尋ねつつ、明日をいかに生くべきか」である。過去10年を振り返るだけでなく、一人一人がこれからの開成中等や自分の人生を考えられるような式典にしたいという思いが込められており、企画から運営まで生徒が主体となつて創り上げた。座談会は、初代校長である相澤克明先生、昨年度まで本校に務めていた森誠一郎先生に加え、卒業生からは2



座談会の様子

期生の田寺将樹さん、4期生の北村梨央さん、6期生の石川貴晴さん、そして在校生からは10期生徒会長である阿部祥太郎さんが登壇した。開成中等の開校



にまつわるエピソードや、開成中等の強みや、校舎建設の貴重な映像などを通して10年間の歴史とこれまでの先生方や生徒の想いを振り返った。

次に行われた絵馬企画では、在校生徒全員で絵馬に目標を書いた。各々が自由に自分の将来や人生の目標などを書き、盛り上がりを見せていた。式典の最後には全校生徒で校歌を斉唱した。伴奏は管弦楽部が演奏し、10周年のために編曲された校歌によって普段とは違った華やかな雰囲気の中校歌斉唱となった。

11月4日から7日にかけて管弦楽部によるアンサンブルコンサートが開催された。大勢の観客が集まり、カフェラウンジに盛り上がりを見せた。

最終日に演奏した4年4組井上和奏さん、大西美晴さん、遠山優月さん、3年4組佐藤みずきさんの4人に話を伺った。Q1 今回のアンサンブルコンサートに参加してどうでしたか。佐藤緊張しましたが、

先輩たちと一緒に演奏できる楽しさが一番大きかったです。また、異学年でアンサンブルを組んで演奏することでも得られる学びもありました。Q2 公演に向けてどのような工夫や練習をしてきましたか。

アンサンブルコンサート開催!

方などのバランスが難しい組み合わせだったため、個人の演奏スキルを高めることに重点を置くように練習しました。また、他の楽器との重なり方など理解しながら練習の中でしかできないアドバイスを通して曲の構成の理解を深めま



演奏中の4人の様子

大西: 演者と客ではなく、その空間全体で一体となつて楽しめるように、手拍子や声出しなどで観客を巻き込んでいきたいと考えています。

式典の最後には全校生徒で校歌を斉唱した。伴奏は管弦楽部が演奏し、10周年のために編曲された校歌によって普段とは違った華やかな雰囲気の中校歌斉唱となった。

旭川・富良野二年目へ

10月9日から10日の2日間、2年生の宿泊研修が旭川・富良野で行われた。その中で、昨年度から研修にかかる予算や、一部の研修先の変更が行われた。昨年度からの変更について、基礎期主任の柴田先生に取材を行った。

Q1 去年と今年の変更点は何かですか。

A1 まず、生徒が多くの選択肢から選べるよう、研修先を4つから8つに増やしたことです。また去年は青少年の家に宿泊したが、今年にはホテルでの宿泊になったことです。札幌市教育委員会の二万円の上限額が撤廃されたので、研修の質を確保

しつつホテルに泊まれるようになりました。ただし、昨年は持った新千歳空港とのつながりが持たず、価格も高かったため、今年は空港の研修はなくなりました。

Q2 研修先の変更はバスの運賃上昇は影響しましたか。

A2 それは正直あります。ですがバスの値

段以外にも宿泊施設の価格上昇もありました。

Q3 宿泊研修の意義や目的は何ですか。また、それらを達成するために先生方が行った工夫は何ですか。

A3 まず、一つの目的として集団での生活を通して「グループの中で活動する自分」「集団のために活躍する」という要素、いわゆる「協働スキル」を身につけることです。そのために、「全員係制度」にし、必ず全員が何かしら役割を果たすということを生徒の皆さんに頑張ってもらいたいという目的がありました。

て、SA的な視点で世の中・社会のニーズにどのようか答えていくかを考えて欲しいというのがあります。

具体的には、提言作成によって、その業種やその企業が「どんなことをしたらもつとそ

の地域に貢献できるのか」「その企業としてもっとより良い形を見つけれられるのか」を知ってもらいたいことです。数年前は実際に二セコで目の前で提言発表をしていきましたが、それは二セコだからこそできることであつたことでした。今では、オンラインで企業と学校をつなぎ提言を発表できるよう企業にお願いしています。

Q4 旅程などを決める際に苦労していることはありますか。

A4 まだ富良野・旭川に変わってから2年目なので、研修先がなかなか確保できなかったことです。旅行者にお願ひしてもいます

が、自分たちで色々調べコンタクトをとっていきます。

Q5 宿泊研修に行く人に対して伝えたいこと

はあります。A5 集団を代表して来ていることを忘れないで欲しいです。開成の代表として、企業の

日時	月日	
		8:45 学校出発 高速道路→SA ★グループ別学習 バス1台で2グループを送迎①～⑥旭川(3台) ①旭山動物園(国内自由見学と体験活動) 25名 ②旭川デザインセンター(館内講話と木工体験) 15名 ⑦～⑧富良野(1台) ③旭川市科学館(サイバル) 25名 ④北海道地図株式会社(印刷工場見学、社内見学、3Dコンテンツ体験) 15名 ⑤陶芸体験(大雪窯) 25名 ⑥硝子体験(グラススタジオ淳工房) 15名 ⑦富良野チーズ工房(バター作り体験)+ふらのジャム園(ジャム作り体験) 20名 ⑧新富良野プリンスホテルでの研修(ノンアルコールカクテル作り体験、館内見学等) 20名 16:30～16:45(随時) 新富良野プリンスホテル到着 17:30 夕食
	1 2025年10月9日(木)	
		7:10 朝食 8:45 ホテル出発 9:00～12:00 環境教育プログラム(富良野自然塾) 12:20～13:10 昼食(ホテル内) 13:20～14:20 フラノマルシェ 高速道路→SA 16:30 学校到着
	2 2025年10月10日(金)	

▲今年の宿泊研修の日程表

先程のインタビューにもあつたように、札幌市教育委員会が指定していた上限額が撤廃された影響から、旅行代金の値上げが行われた。研修先によって金額は異なるが、最安値で24,330円、最高値は27,600円となつた。平均すると、26,000円となり、昨年度までの上限額から、6,000円ほど増額する結果となつた。

これにより、昨年度から比較して研修内容が充実する傾向がみられた。

方に「開成ってこんな素晴らしいところなんだ」と思っていたら、来年以降も協力できるようにしたいです。(町田佳桜)

上限額の撤廃



▲インタビューを受ける柴田先生

「開成ってこんなに素晴らしい」と思われるように



▲富良野自然塾にて裸足で目隠しをして散策

記憶を彩る 宿泊研修

今年の宿泊研修では、旭川動物園や富良野チーズ工房など計8つの研修先に分かれての研修が行われた。全体のプログラムでは富良野自然塾で植林や裸足での森林散策などを行い、自然環境への理解を深めた。

1日目

1日目は、学年で出発式を行った後、各研修先に別れ、バスで旭川・富良野へ向かった。移動中には、担当生徒が企画したバスレクが行われ、車両ごとに「たけのこニョッキ」や「モッツアレラチーズゲーム」で対決し、笑いの絶えない時間となった。移動途中の公

園などを昼食をとった後、それぞれの研修先に分かれ、見学や体験活動に取り組んだ。ここでは、研修先ごとに異なる体験が行われ、ものづくりや地域の仕事、自然についてなど、分野に応じた学びを深めることができた。研修終了後には、宿泊するホテルへ移動し、バイキング形式で夕食を取った。夕食後には担



▲夕食を楽しむ生徒達

も飛び交った。後日、部屋での出来事を聞いたところ、「部屋での恋バナが楽しかったです」、「人数が少ないのでこれまで以上に部屋の相手と仲良くなれました」といった喜びの声が上がった。

当生徒が準備したビンゴゲーム、サイレントキラーゲームなどのホテルレクで盛り上がりを見せた。就寝前の自由時間には、各自の部屋や、「ラベンダー」と呼ばれる集合スペースに集まり、歓談が行われた。「ラベンダー」には大勢の人が集まり、お菓子などと共に笑顔

も飛び交った。後日、部屋での出来事を聞いたところ、「部屋での恋バナが楽しかったです」、「人数が少ないのでこれまで以上に部屋の相手と仲良くなれました」といった喜びの声が上がった。

学びと楽しみの両方へ

2日目

2日目には、ホテル近くの富良野自然塾で「環境教育プログラム」に取り組んだ。プログラムでは、植林や目を隠し裸足の状態での森林散策などを体験し、

自然と触れ合う中で環境問題を自分ごととして考えるきっかけを得た。これらの体験について生徒にインタビューを行うと、「裸足で森の中を歩くと、足の裏が寒く、だんだん感覚がなくなっていく

ことに驚きました」、「目を隠し、雄大な森の中を練り歩くという体験は人生で初めてだったので、未知の体験を楽しむことができました」といった声が上がった。さらに、地球環境についての講義も受け

た。自然塾の職員の方の地球誕生からの億年の歴史を地球に見立てたオブジェで示しながらの解説に、生徒たちは地球環境の成り立ちや現在の課題について理解を深めていた。

「自分が知らないところでもこんなにも環境問題が深刻化しているんだと改めて気付かされるよい機会だった」と語った。
(高橋結月・佐藤壮笑・町田佳校)



▲提言している生徒

宿泊研修当日に実施することができなかつた提言発表が、12月1日の2セッション目に改めて行われた。今年度の提言発表は、研修先の企業の方とオンラインでつながる形を中心に行われたが、研修先によっては別日程で発表を行ったり、提言している様子の動画を企業に提出するなど実施方法は多様だっ

た。多くの生徒が真剣に提言に向き合い、企業の方からの質問に答えたり、自分たちが準備した提案を丁寧に説明した。

提言の場 オンラインへ

半澤凜香さん

中学の部で全道一位

第五六回全道学校書

道展において3年生の半澤凜香さんが文部科学大臣賞(中3全道一位)を受賞した。半澤凜香さんに作品について取材した。

Q1 作品について込めた想いや苦労したことは何ですか。

A1 最も苦労したことは「バランス」です。半紙にたくさん書いていく中で、一文字一文字の線の太さや長さ、そして、四文字全体の遠くからの見え方を調節しました。この学校



▲賞状を持つ半澤さん



▲受賞した作品

展では、私は行書の古典である「灌頂歴名」という空海の書状にある「受胎蔵灌」を書いたのですが、線の豊かさを意識しつつ流れを出して書くことが難しかったです。

Q2 今後の展望を教えてください。

A2 行書以外にも沢山の古典があるので、今年是他の古典にも触れてみたいです。また、後期生からは、半切や全紙など半紙よりも大きな作品を書く大会が出てくるので、それまでに臨書の基礎力を高め、より一層楽しんで書道を学んでいきたいです。

Q3 最後に一言ありますか？

A3 ご指導して下さいました、高橋先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

書道部が輝く実績！！

受賞導く指導方法とは

書道部の顧問でもあり、全道学校書道展で審査員もしている高橋竜平先生に取材した。

Q1 審査はどのような方法で行われていますか。

A1 紙面の様子、バランスを見えています。審査する際は審査員がいろいろ思った手を挙げて多くの手が上がった人が賞をもらえます。墨量の変化、筆勢が見

られる、いきいきした作品が選ばれています。Q2 審査中に感じたことはありますか。

Q1 審査はどのような方法で行われていますか。

A2 全体審査に本校の生徒の作品がでてきたときは、たくさん挙手があるといいなという期待をしていました。Q3 普段、書道部はどのような練習をしていますか？

A3 ひたすら書いて荒落としていくという

ことをやっています。お手本は書かずに自分で作品づくりをさせる方針です。

Q4 今、書道部が取り組んでいることについて教えてください。

A4 来年の高文連で良い結果を残せるように練習しています。(北村・山崎・山内・和久井)

書道部の受賞結果

- 高文連全道大会結果
 - 高文連文化連盟賞6年 本間果琳(高3最高賞) 優秀賞 5年山下明莉
- 全道学校書道展
 - 北海道議会議長賞 4年石倉朱莉(高1全道1位) 北海道教育委員会教育長賞2年白川未菜(中2全道1位) 札幌市教育委員会教育長賞 4年足立柚葉
- 特選
 - 1年庵結衣、2年柳合果実、3年今井紗愛、岡崎聖明、須川碧泉、4年佐藤美梨
 - 5年山下明莉 秀作
 - 1年菊池凜桜、佐藤知花、千船

- 綾音、牧野琴羽、森谷実桜、山田美和
- 2年飯岡由衣、若原由芽
- 4年古川絢夢
- 6年飯島太陽
- 全道学生書道展結果
 - 北海道議会議長賞 6年本間果林(高3創作の部全道1位)
 - 北海道教育委員会委員長賞 2年白川未菜(中2の部全道1位)
 - 札幌市教育委員会教育長賞 4年佐藤美梨(高1の部全道2位)
 - 北海道PTA連合会賞 1年庵結衣(中1の部全道1位)
 - 推薦 4年古川絢夢、石倉朱莉

(敬称略)